

公表

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

|                |                          |           |    |
|----------------|--------------------------|-----------|----|
| ○事業所名          | one step smile東三国教室      |           |    |
| ○保護者評価実施期間     | 令和6年 2月 1日 ～ 令和7年 2月 28日 |           |    |
| ○保護者評価有効回答数    | (対象者数)                   | 32 (回答者数) | 22 |
| ○従業者評価実施期間     | 令和6年 2月 1日 ～ 令和7年 2月 28日 |           |    |
| ○従業者評価有効回答数    | (対象者数)                   | 9 (回答者数)  | 9  |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 令和7年 2月 28日              |           |    |

## ○ 分析結果

|   | 事業所の強み（※）だと思われること<br>※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等   | さらに充実を図るための取組等   |
|---|--|---|--|
| 1 | 利用定員や利用者数に応じて余裕を持った職員数を配置している。             | マンツーマンの支援が必要な児童に対しての指導員の配置や屋外活動での安全を考慮した人数を配置しています。<br>安全第一の支援活動を目指しております。                        | 現在、必要に応じて屋外活動を行う際にグループ分けをして順番に屋外活動を行うことがあります。屋外活動ではどのような危険があるかわからないため、できるだけ多くの人員を配置できるようにこれからも努めていきます。 |
| 2 | 日々の支援に関して記録をとることを徹底している                    | 日々の活動の内容を些細なことでも保護者様に伝えるようにしております。支援内容や教室での様子などを連絡帳や送迎時にお伝えしております。また支援記録や業務日報を作成し、日々の支援に活かしております。 | 支援内容を職員間で共有の出来るように、ノートを使って当日に出動していない職員にも引継ぎの出来るようにこれからも努めていきます。  |
| 3 | 各種マニュアルを作成し、緊急時に対応できるよう避難訓練も年2回行っている。      | 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員に周知している。<br>発生を想定した避難訓練も実施している。                    | マニュアルは保護者様の方々に公表をしていないので、今後必要に応じてホームページやSNSにて見える形にしていきたいと考えております。                                      |

|   | 事業所の弱み（※）だと思われること<br>※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等  | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等   |
|---|--|--|--|
| 1 | 子どもの活動スペースが場合によっては狭く感じる                    | 教室のスペースには限りがあるので、子どもの人数が多い場合に手狭に感じてしまう場合がある。子どもが多いと支援をする職員数も増える為、より手狭に感じることがある | 教室のテーブルの配置などを工夫して、子どもの活動するスペースを区切ることで子ども同士がぶつかることなどを防いでいる。                 |
| 2 | 放課後児童クラブのこどもや地域の子供との交流がない。                 | 屋外活動などで地域の子供たちと関わることもあるが交流をしているとまではいかない。                                       | 必要に応じてイベントなどを通じて地域のこどもと交流できるばを設ける。<br>(ただし、通所しているこどもと保護者の意思に配慮しての開催を考えていく) |
| 3 | 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っていない。      | 開所後に事業所にて地域の方を招待するような行事を行っていない。<br>利用者の個人情報や特性にも考慮が必要なため、招待には注意が必要と考える。        | 地域住民を事業所に招待することは利用者の特性等を考えるといきなりは難しいため、まずは地域の催し物などに参加することから始められるとよいと思っている。 |